



ほんだ

新発田市立本田小学校

願いを叶えるために、動きだそう

校長 多田 和幸

気温はそれほど高くないものの、じっとりした毎日。それでも七夕飾りが、さらさらと風にゆれています。都市部での新型コロナウイルス感染症拡大、各地の水害のニュースが気になりますが、本田の子どもたちは、元気に学校生活を送っています。

「コロナウイルスが、収まりますように。」「家族がいつまでも健康でいられますように。」・・・今年の七夕飾りには、コロナの収束を願う短冊が目立ちます。「いい卒業式になりますように。」「修学旅行に行けますように。」・・・6年生の切実な願いも伝わってきます。様々な制約の中でも、楽しみや喜びを創り出し生活を充実させようと、学校でも試行錯誤の毎日。子どもたちの様々な願いが叶うように、できることを探りながら行動に移していきたいと思えます。



「将来、〇〇博士になりたいです。」「〇〇の選手になれますように。」「漫画家になれますように。」・・・と、将来の自分を思い描き、短冊にする子どもたくさんいます。7月2日の「命の重さを考える日～おばたのお兄さんリモート講演会～」では、自分の好きなことを大切にしながら夢を叶えた「おばたのお兄さん」（吉本興業）のお話を伺いました。

「願い」は、自分を動かす力の源であり、その願いが強ければ強いほど、大きな力を生みます。はじめはぼんやりとした願いでも、「自分は何がしたいのか？」と自問したり、願いを言葉にしたりすることをくり返しながら、確かな形になっていきます。また、願いは、行動を起こしてこそ、実現に近づきます。行動につながる「願い」は、やがて、より明確な「志」や「目標」となります。

子どもたちが願いをもち具現する機会は、日常でも意識して創り出したいと思えます。本田小学校では、授業でも、子どもの「なぜだろう?」「～したい。」という思いや願いに寄り添った授業づくりに取り組んでいます。「自ら きたえる」本田の子どもとして、自分の願いを実現するために行動しようとする子どもたちを、応援していきたいと思えます。

今年度は、8月4日まで1学期を延ばしました。これからの1か月間、コロナに負けず、暑さにも負けずに、「願い」をもちながら学ぶ子どもたちを支援して参ります。

ちなみに、私が短冊に書いた願いは、「・・・」

・・・秘密です。

スマイル班で花を育てています

6月9日に商工会から花の苗をいただきました。当校では、プール脇の花壇に花の苗を植え、スマイル班を中心に花の世話をしています。高学年が中心になって、苗の植え方や世話の仕方を下級生に教えています。

水やりや雑草取りは手がかかりますが、10月にはきれいな花々で閉校記念式典を迎えたいと思います。



命の重さを考える集会を行いました

7月2日は「命の重さを考える日」でした。当校では、毎年この日に「自分のかけがえない命を大切にすること」、「命を輝かせて生きることの大切さを考えること」を目的とした集会を実施しています。今年度は、本県出身でお笑い芸人として活躍する吉本興業の“おばたのお兄さん”の、自分の夢を叶えるまでのエピソードや、ご自身が日々大切にしていることについて、お話を聞きました。新型コロナウイルス感染症対策として、今回はインターネット回線を使って、リモートでの出演となりました。「自分の好きなことを見付け、ずっと大切に続けること」「人に感謝して生きる人の周りには、自分に感謝してくれる人が自然と集まってくること」を、ご自身の体験を通してお話ししてくださいました。



みんなでレッツ、マッショダンス!

新型コロナウイルス感染症の影響で、身体がなかなか動かせなかった子どもたち。その運動不足を解消しようと、児童会の運営委員会が、楽しく身体を動かす「マッショダンス大会」を企画しました。“ハンドクラップ”という、今話題のリズムダンスの映像に合わせて、学年ごとに曜日を決めて、ダンスで身体を動かします。

はじめはダンスを覚えるのが大変でしたが、5分間、10分間とダンスをしていくと、身体がダンスの動きを覚えていきます。子どもも職員も一緒にいい汗を流しました。

